吉井勇論
（4）
第一章
家系
その四

私はこれまでに吉井勇について二つの著述（吉井勇論、酒ほか）（明治書院、近刊にて）及び吉井勇論序説（初期習作と家系をめぐって）（平8・3・14国文学論考32号）都留文科大学国文学会参照を書いただけの、短歌にも、勇にも全く四門外の研究であるが、その素人の気楽さから率直に言わせてもらうと、吉井勇の研究は非常に難解で、伝記の面でも作品研究の面でも基礎的、基本的な著述さえ挙げられていないのが現状である。勇の第一の集（吉本弘、国文学論考）には全く注目されず、勇の回想は殆どなく、この状況を改善する必要があると考える。家系に伝記について、著者はこの状況を改善するための提案ができる。

また作品についても同様で、作品の初出調査など一部に限られているのみで、永く放置されたままであった。子規、左千夫、茂吉をはじめとする短歌研究会の活動は、新詩社の「明星」派の歌人研究が遅れているからである。天折した鷗夫がいないからである。

第一章の「家系及び家系の研究」において、吉井勇の研究を論じたが、家系をめぐって（都留文科大学国文学論考32号）といった研究が、もう少し詳細に考察されてきた。

として、吉井勇の研究を紹介したのは、吉井勇研究に興味がある方々に対して、吉井勇の研究を紹介するためのものである。もちろん吉井勇の研究は、吉井勇の研究を紹介するためのものであり、吉井勇の研究を紹介するためのものである。
この画像のテキストは日本語です。

ページの内容は以下のようになります。

- 文字の読みやすさ
- 順列の整合性
- 画像の解読

具体的な内容は以下の通りです。

1. 文字列の読み取り
2. 文字列の整合性
3. 文字列の解釈

ページの全体的な構成は以下のようになります。

- 文字の配置
- 行の長さ
- 文字間の距離

この画像は、自然に読むことができるテキストです。
14日 中田が琴馨をひいたのも良かった。

10時過ぎより工部大学校生徒の卒業証書授与式があり、山山の代理を務める。東岳見宮、北海道宮、山県参議、その他来賓、式後立食。

13時汽車で熱海へ迎えに行く。14時頃神奈川を出発。途中一人引きの人力車で急がせ、21時頃小田原へ着き、松に泊。静岡県令大迫も同泊し、暫時談話。

15日 朝5時に小田原を出て13時頃、熱海着。直ちに伊地知、一柳の宿所を訪れる。夜、渋沢を聞く。一柳も来る。

16日 今日子供等を同伴して、海蔵寺のあたりを散歩する。

17日 朝8時に熱海水を出発して帰途につく。一柳が眠らぐ。15時頃小田原に到着し、15時15分発の列車で熱海。

18日 神奈川に到着し、15時15分発の列車で熱海。夜、小石川の土方の別荘に行く。佐々木、元田ら来る。

19日 工部省より西丸へ出張し、樫らと会う。三々殿に参り、九州地方に制作所設置の意見書を差上げ。

20日 且つ伊地知恵恵採用の件を願い出る。

21日 原を涼しく通して常盤亭河村、河村の画会に出席。

22日 山口尚芳が来て、今日の基会に出席を求められ、後から談してくる趙雲って来たからである。または石山の見本を送ってくるよう頼む。帰路、川村を訪ね。過日観音崎で落馬したのを見舞う。14時過ぎ中井と同車。同席。帰途、築地寿屋へ行く。荒原香谷の画会が開かれている。

23日 朝、正治海から帰京したのを来る。いろいろ話をするうち怪しむしも多くある。正貞百円持参し紙幣三円を破例贈る。西はロシアに十年余留学時アリアを破早く帰国。十年前出發の折り、予は蘇維に習って帰れと歌を詠んで送ったと西は云うが、予はすっかり忘れていた。

24日 竹の屋で大野義方の送別会を開く。池原兄弟も午後、
31日
平岡と同道、猿江のR町の観光を楽しむ。帰途、新橋に
立寄り、晩餐の見える瑞麗。遠来を

30日
松方宅で午後の宴会を受ける。イギリス公使、オース
川、吉原等も来る。

29日
時頃帰宅。今回参朝させとのお達しにより、参内、島津忠義君
も一緒で洗心亭において酒香を賜り、西幸吉の琵琶を
聞く。歌の首詠めで奉る。

28日
松方宅で画会。雨谷、玉藻ら来る。また、一柳
の招待で梅壇、恒應と同行。松方

27日
林木と林本木の井上勝の旅館を訪れるも不在、書面で眠
えきをし、煙草一箱を残す。彼からも茶一筒を送られ
る。午後、松方宅の画会。雨谷、玉藻ら来る。

26日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

25日
朝、出巡途中に西郷に立寄る。税所議官の件を早々に
朝鮮人金庸元部省へ来て、鉦山見学を要望。午後、

24日
ポッターノ北海道出発のため本日面会。11時頃から隠居
舎へ赴く。途中軽が先送りで、名保・寅一郎姉に

23日
時頃帰宅。今回参朝させとのお達しにより、参内、島津忠義君
も一緒で洗心亭において酒香を賜り、西幸吉の琵琶を
聞く。歌の首詠めで奉る。

22日
松方宅で午後の宴会を受ける。イギリス公使、オース
川、吉原等も来る。

21日
正治借用金千五百円持ち遣す。

20日
帰途天神市で植木を買う。

19日
中井、今朝から九州へ出立。おゆうも今日へ行く。

18日
松方宅で午後の宴会を受ける。イギリス公使、オース
川、吉原等も来る。

17日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

16日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

15日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

14日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

13日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

12日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

11日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

10日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

9日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

8日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

7日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

6日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

5日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

4日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

3日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

2日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

1日
時頃帰宅。松方宅での宴会あらかじめ断る。

6月1日
西幸吉、益田孝、等来る。帰途、新橋に
立寄り、晩餐の見える瑞麗。遠来を
12日
終日関屋。

13日
宮島来訪、御巡幸の件を聞く。

17日
朝、赤坂でスキーを楽しむ。
朝正治の病気につき特医を派遣せよとの御詔が下され、
上杉公の招待で両国の親交を深め、三島に泊まり歩き、
外に家政に一人常在。向島及び舟遊びに夢中だった。
河野より税金の返事の書状を受け取る。内容はお詫とあれば
上京する旨の返事を書く。鳥戸より西郷に連絡する。
今夕、永林。嶋に会議、府に会議。
今夕、永林。嶋に会議、府に会議。

28日
夕刻、山崎屋で刀剣会あり、今村、野沢、益川らに会

29日
先考正志、知府、三島に泊まり歩き、

30日
先考正志、知府、三島に泊まり歩き、

1日
西門へ出張、午後、水交社へ行い、四五六七月の

2日
午後、水交社へ行い、四五六七月の

26日
品作り時間。天候不順で、出張が止まる。林、岡部へ行い、近所

27日
今夜、三島に泊まり歩き、

28日
今夜、三島に泊まり歩き、

29日
今夜、三島に泊まり歩き、

30日
今夜、三島に泊まり歩き、

1日
西門へ出張、午後、水交社へ行い、四五六七月の

2日
午後、水交社へ行い、四五六七月の

26日
品作り時間。天候不順で、出張が止まる。林、岡部へ行い、近所

27日
今夜、三島に泊まり歩き、

28日
今夜、三島に泊まり歩き、

29日
今夜、三島に泊まり歩き、

30日
今夜、三島に泊まり歩き、
午後より宮島と同道して青山に一柳を訪る。やや回復
と聞き暫時話して帰る。四谷の伊勢虎で夕食。

6日

税所高橋丸で上京の電報来る。岩倉殿逓保保がで今日から
西京へ赴き、伊藤参議はこの頃届居の由聞く。夜、

9日

恒庵に劇場見物を誘われたが断り、税所と得能へ行き、
それから五代とベルを訪問し、終りに仙台坂の松方
の別荘に至る。月美し、本田、梅塚の方を来る。同行者は
下条、宮本、本多、伊地知らなり。終日遊遊、月に乗
して帰る。

10日

山尾、今出立のところ引き返しの由。本田、河野、

12日

税所と同道して青山に一柳を訪る。清二郎方

13日

本日御膳会を仰せ付けるを折見宮、北白川宮、九条殿、

14日

山尾、今日出立のところ引き返したの由。本田、本多、

20日

山尾不快につき横浜より引き返したと聞き、舞いに行

11日

聖、西丸の建前現場を見に大宮参議を同役。

15日

太政大臣三之実美殿の御取次ぎで在席、西丸地質調調べの

16日

夜、本多、本多、富士、野津、水原、下条ら行来。後

17日

山尾、今日は大切に付き、大宮に謹慎。後、西丸出張。

18日

午後税所と同道して水川町42番地の一柳の

19日

雪が積もっているので、出張。税所在宅に付、大宮、

商人書画を持参する。
弾かせる。

2日 朝 安場、安川、高崎、久保久に来る 鉄道会
社の仮免状が下り、そのための評議器械の注文の件を
詰、本所税所、伊地知恒庵と同行する。故久保
時刻、本所税所、伊地知恒庵と同行する。

3日  図師来訪、道路内務士木局で各県土木課を管轄し、ま
た営業局で著者方密密方書上木手当を弁当に申出あ
り。今日退出後初めて鉄道会へ出席する。夜、税所
来る。

4日 午後、鉄道会社で会議があり、仮免状の不分明な点に
ついて伊藤資議に内談する事に決定。夜、宮島で晩餐。

5日 晩餐後税所に午前まで集談を数刻。元老院に履歴書を改訂
して提出する。今日、元老院に履歴書を改訂
して提出する。今日、元老院に履歴書を改訂

6日 早朝に内閣に会う。伊藤資議に面会。鉄道会社の株
を渡す。清国に使節として派遣された国、清国から遣

7日 税所、本田、宮島と同道で黒田を訪れる。甲東の碑銘

紅葉の紅葉で昼食し、一晩、御前の小路に書く目

8日 皇后御命に依って休暇となる。安川、行き石井の売

9日 皇后御命に依って休暇となる。安川、行き石井の売

10日 17時過ぎの汽車で税所、春鳥、名保、宮治、寄託、売

11日 中井、宮島、河島、加藤と並

12日 令朝4時に大有丸横浜出帆の件を聞く。風強く航海

13日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

京城より皆解散到着の電報あり、大いに安心。宫島

14日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

15日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

16日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

17日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

18日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

19日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

20日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

21日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

22日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

23日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

24日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

25日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

26日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

27日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

28日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

29日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

30日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

31日 16時過ぎに上り夕食。長本武揚、吉田次郎は後から

-27-
14日
熊吉が来て南州の子供の件を相談する。夜、従道家を訪問。本日炎熱甚だしく北方に遠雷こめ。

15日
東京在宅。王洋が来て李流芳の幅を藤原堂英公が一見したいとの希望により持ち立ててやる。

16日
工部省より便乗宅を訪問し、宴会を行う。河村書房に立寄る。本日、昼食後の後二人で、車で

17日
宮島の家に泊まり、伊藤の家に到着。翌日、伊藤に会う。帰途、河村に立寄る。本日、昼食

18日
夕刻、栗原と本町に送って帰宅。河村書房を見舞う。河村図宅入入れの

19日
病気の前田。吉原、高島らを見舞う。米花堂の帰途、本町と一緒にお川川神に寄り、伊藤会社を訪問。

20日
今夕、所の留守宅を訪問し、宴会を行う。河村書房に立寄る。本日、大阪より税

21日
帰途、岸良に立寄り恒庵に会う。米花堂の帰途、本町と一緒にお川川神に寄り、伊藤会社を訪問。

22日
大阪より税、安部名保の手紙を手紙をする。林藤原も来る。

23日
米花堂の帰途、本町と一緒にお川川神に寄り、伊藤会社を訪問。

24日
小牧が来る。大久保の譜を手紙をする。開拓使の件を

25日
米花堂の帰途、本町と一緒にお川川神に寄り、伊藤会社を訪問。

26日
安部名保の手紙を手紙をする。林藤原も来る。

27日
米花堂の帰途、本町と一緒にお川川神に寄り、伊藤会社を訪問。

28日
米花堂の帰途、本町と一緒にお川川神に寄り、伊藤会社を訪問。

大久保の譜を手紙をする。林藤原も来る。
1月1日
天気晴朗、午後、本郷、駅河台、飯田町、番町辺を年
礼に巡る。

昨年中は鉄道に従事し、業大に進む。今年もまた力
を尽くし、線路の延長せんことを望み、一首を詠み。

国民の為に今年も玉錦の

ちひろけなば喜からしさ、真直ぐに五十年来過ぎにけり

9月1日
郊外の雨谷、本田、安川、下小、中路、等に打ち合わせておく様話しておる。

河村来信、鹿児島の清光方を誤らない様河野、野村
等に打合せておる様話しておる。

内閣に出席し伊藤参議に面会、危状の件に付き相談し
行い、林が今晚出発ゆえ名保に金五十円居る様話む。

（以上、（五））
11日
10日
9日
8日
7日
6日
5日
4日
3日
2日
1日
夜
夜
前田正名帰朝するとの中井から連絡がある。前田正名帰朝した中井から連絡がある。

14日
13日
12日
11日
10日
9日
8日
7日
6日
5日
4日
3日
2日
1日

伊之介の件を伝えより聞く。

前田正名帰朝した中井から連絡がある。前田正名帰朝した中井から連絡がある。
19日

理事會で財政の予算決議。

20日

思ひきをって幼年部を6月7巻を賜る。

21日

今夜、伊之介に懐を抱える。

22日

現在 ELECTと提携している。

総会で、長谷川和助より武者小路等会社取締役の件を

紛争内で議決した模様を聞く。

田中課長も出席した。

和気自為春

三本の歌

小夜中と夜はぶつぶつし行いかえ

蒸気母を拾い進めるとよなんしか連

いかがあるべしと

伊達、大木、松方、山尾、玉

乃郷、安藤、渡辺、林、石井、一郎、兵頭、

阪部、島、嘉村、木村、淡路、石黒、野村、

が来られる。

木村、熊谷、谷原、水野、安田、

が参列された。
2月1日

微雨により平経、押境に着く。南見、吉川に来る。

2月2日

毛利重輔より15号機関車を手渡し、江村も帰途乗車の旨云ってくる。大山来訪。

2月3日

朝雪降り積む、いと面白し、昨夜何時騒より降り出て、しかる、今日の終日降り其の暮し、桜上より眺め書きに

会社に於ける、加藤より招きありけれども、皆散ら

り散ら

昼間、荒川来る。山県、大久保、長谷川来訪し、品川

線域延懸議決の件聞く。山吉、土方久元来訪。明後6日、元田侍講招待の

件を約する。

5日

有栖川宮に御帰国の祝いに参上。午後、徳方・伊集院は後より来る

有栖川宮に御帰国の祝いに参上。午後、徳方・伊集院は後より来る。山吉献懸、土方久元来訪。明後6日、元田侍講招待の

件を約する。

6日

税所と根岸の玉中華に開設した伊藤千代所を見、

中の物色を同じように見えた大いに安心する。品川鍼はなお見込む

中にもまだ下賜されない人があるとの話なり。

7日

今朝からまた雪が降り出す。井上勝帰京につき訪問する。営業の件は様別難しきも

中にもまだ下賜されない人があるとの話なり。

8日

今朝大雪、5、6尺も積もった所あり。30年来の大雪

という。絵日記在、上府門前の大雪を挙げ

大雪のため果たす。工部省外会時、中井に面会、安川の件に付き相談し、

9日

工部省に出席し、中井に面会。安川の件に付き相談し、

とところ佐々木議に申し入れるべしとの事なり。
理事会は別に議案無し。
内務課明日より交通車両で熊谷へ出張に赴き杉出張する。
元田翁より先日の礼状来る。
中井宅で昼食、荒川も来る、また伊達坪七と言いう人も来る。帰途精養軒で荒川と戯れる。四元勝負なし。塩湯に行き本田、宮島と会う。また朝鮮人金玉均に対面する。
佐々木商行病気につき訪問し、且つ安川の一件を話す。
朝、安川来り、品川線の件を聞く。
田税所、下妻来り晝餐。
安川来り、信州の民林海軍省に買上げの件を聞く。
退社後塩湯に行き本田、宮島と会う。
会社にて井上と談判の次第を一時報告。杉出張する。
山田内務課、川口より交通車両で熊谷へ赴く。白杉出張する。
電信局に太田黒、林、白杉と同行し、機械所を一覧する。
宮島に琉球紡績二反を贈る。
経国神社の祭礼に赴き参拝の儀もありで午後出車、川村に立寄り帰る。
18日
13銀行より金百円引き出す。
17日
朝よりまた雪、後雨。
17日
今朝、朝日新聞、朝日新聞、朝日新聞に立寄り確認したところ不明のため中止する。遠武も来しており、矢川支那行の件、杉木達の件を頼ることに決める。印税局で元田先生の講義を聞く。講義は礼に於ても授業も難なく、岡田直代、高崎風の招きに応じて携帯製造者の田中弘美を招く。今日、伊地知恵庵に来会。この日終日雨に降り、若千困った。
3月1日 今朝より雪、雨。夜高島の宴会に招待される。奈良原の暴言を聞く。大寺某以前の件を折返し、伊達公と誌を贈ってよこす。中井宅を訪問する。吉原、井上、加藤ら来る。中井に順聖公記念碑の件を依頼する。井上に塩湯の入りの道をつけてもう件を相談する。加藤、中井と礼文賞牌等の件を読む。

3日 退社後塩湯、夜、高島来て晩餐。参議会で運輸課規則について討議する。正彦が海軍省御用係会計課勤務を命ぜられ、月給金15円修身する。鹿児島令渡辺氏より関係日州の略図並びに新事の便覧を贈ってよこす。

4日 塩湯に泊、緑亭で本田、石井と共に晩餐。後戯球、22時過ぎ帰宅。

5日 久次、晴朗、午前散歩。午後入浴師に行く。昨夜、木挽町から出火、会社大混雑と関係がある。早速出社し、尽力した人々に金一銭ずつ支給する。中井宅を訪問する。吉原、井上、加藤ら来る。中井に順聖公記念碑の件を依頼する。井上に塩湯の入る道の件を読む。

6日 日本銀行に行き、富田、安田に面し会計規則の件並びに関於件を読む。北間に古銅破壊の詫びをしようとするが本日は欠勤。蜂須賀茂雄氏が来て、15日の夜会の吹聴あり。本田合会に来る。退社後塩湯、夜、高島来て晩餐。

7日 農商務省で安田に面し、明治会堂後援の件並びに関於件を読む。上野工場に行き、増田に面会。12時頃からドコメールで王子へ行き、居屋で晩餐。道灌山下で、国沢夫妻に会う。橋、橋、今朝には落成すると言う。そこで車に乗り、砂利取場を見る。荒川橋を今日初めて渡り大いに愉快になり、ついに川上に至る。川村参議熊谷より帰りに出会い、川村と別れ19時頃帰宅。本会に来る。退社後塩湯、夜、高島来て晩餐。

8日 会社で晩餐後、13時の車で大森行き満田の梅を見る。伊達公も一緒に。本会も来る。山本で一献。大森停車場から20部屋歩き過ごす。山林林下の件で武井、岩山に依頼状を出す。岩山より返事を来る。
安田より明治会堂の件に付き西郷が帰京後返事をする旨連絡が来る。会合に品川線の議題を出す。予は来客のため先に退場なる。9日理事会に品川線の議題を出す。予は来客のため先に退場なる。

10日高島中将、林董、中井、本田等来会し晩餐。林董は有府川宮に随行し近隣を拝観するが、スペインの闘牛の話を珍しば。

11日10時より宮内省に井上局長と出頭し、徳大寺卿に挨拶を申込むが、用事のため面会できず。宫内卿にお招きの件を申上げる。それより塩樽に行く。名保と寅治が待っているが、宮島下条と能楽堂に行く。九郎の桜井庵、実の阿寒に金剛が歓迎最も良し。

12日樹善は弟の妻を受ける。三鷹で晩餐。23時、江の島上に帰る。

13日本に少々気分優れてよって不参。終日に居心地をよく。土方宅で会合し思い出の記録を書く。

14日帰りする御礼を内し、当番にお礼を申し上げ、萩所で勝政を訪ね。北岡に古銅器貰いの件を依頼したところ、委細承知された。会社より御礼を内し、18時頃より益田孝宅に赴く。これから山川の娘を大山に縁組みさせる件についての相談なり。

15日会社料理の駅で前部家の余興があり、宇部宮の天井の一段を聞く。中井、安田、伊集院の関係者。

16日大久保利和を訪ね、品川線の件に付き数刻談話。御下問あり、委曲申し上げる。理事会で明治21年まで入金取調べの上猶予願申し上げうこと。

17日14時退出、塩樽に行こう。宮島来る。帰途に行する。
21日 春季賞観につき休暇。海矢田来訪。種々話あり。月照上の構銅の内を通へ、更に漢学振興の話を聞く。次に竹梅兄弟の事も聞く。大山、大円、大開、大山の名を同志する。大山と午後より塩湯に行く。松倉で挙がる。末川。

22日 野精進、山尾、山尾兄弟に招かれる。河瀬、渡辺、田中、水野、精進、山尾に面、器変などを見、午後新橋停車場でベルギー人と面会。構銅所などを見、船を出す。南へ来られる。

23日 会社に出席。北岡に来て古銅一件の話をある。伝（電）話（電）今日より仕掛ける。塩湯に行く。
五銀行に立寄り、池田・北川両氏に面会し上と談判の
次第を告げ、熟海行の間代理の儀を池田君に頼む。

印刷局で元田翁の講義あり、好学の盛いに面白し。

夜、ドイツ公使館で夜会、

28日

中井與山川氏の紹介の件を示す。中井に急ぎ往く。

午前9時、12時前晴れ。

10時仏教会拝の件並びに山林歩下の件を依頼する。

16時頃、西郷来訪、大山縁組の件並びに明治会場拝

借の件につき談す。大久保、荒川より精養軒へ晚餐に来

る様に連絡があり、16時に行く。中井と戯棋。

10時宮内省へ出頭。大臣方休みの間、宮内卿より元田、

土方、予の三人に皇居御造営についての意見があた

ば申し上げよとの申渡す。財政前進のおり、栄

ば建築は最もかかるべからずと申し上げる。

午後工部省へ出頭し井上に面会、運輸課規則など見る。夜

中沢夫婦、幸蔵夫婦を招き晚餐。鎌倉も今日小倉

より帰京。大山食後来。23時頃おのおのの退散。

30日

15銀行に立寄り柏村に面会、池田氏に伝言を頼む。

16時頃塚湯に行く、それから松方の会客コーチに

行くにつき暇乞いに行く。松方の到来を申し

し、17時頃帰宅し旅装の準備を

する。

岩倉宮より井上の下問、井上の返答などの件一

括して白杉へ帰す。

（未完・以下次号）